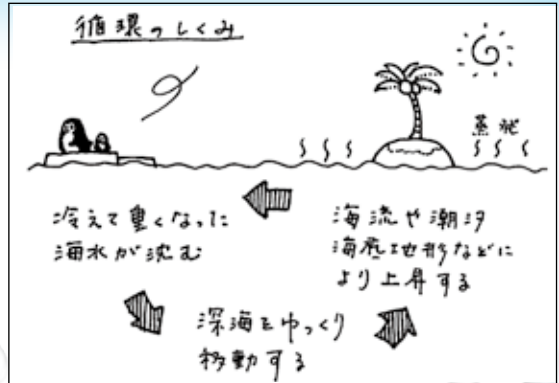




「海洋深層水がふつうの海水とちがうのはなぜ？」

先月号では、海洋深層水は水深 200 メートルより深い「深海」にある海水とご紹介しました。もう少し詳しくいうと、海洋深層水は深海にずっとたまっているわけではなく、色々な力を受けて、ゆっくりと動いています。同じ「海」といっても、太陽の光が強くて温まりやすい海域、寒くて冬は海水が凍る海域、雨がよく降る海域、川からの水が流れこむ海域…などなど、場所によって海水の性質は少しずつ違って、これが海水の重さ（密度）の違いを生み出します。そして、



その違いが、海の浅いところと深海との間で、流れを作り出しているのです。一番大きい流れは、グリーンランド沖や南極海の一部で沈み込んだ海水が、大西洋からインド洋を抜けて太平洋で浮かび上がってくる「深層大循環」と呼ばれる流れで、一周するのに 2000 年もかかると言われています。もちろん、この流れのメカニズムがすべて解明されているわけではなく、最近も「もし月がなかったら『深層大循環』は生まれず、地球の気候は人類の生存に適さなかったかもしれない」という学説が発表されています。海はまだまだフロンティアですね。

さて、そんなふうに長い年月をかけて循環するうちに、深海の海水は、浅い海の水にはない、世界共通の性質を持つようになります。「水温が低いこと（低温性）」「細菌やウイルスが少ないこと（清浄性）」「植物にとっての栄養がたくさん含まれること（富栄養性）」の3つです。久米島では、この3つの性質をうまく使って、色々な産業が興っています。次回は、このような「海洋深層水の利用」について紹介したいと思います。

(一社) GOSEA 事務局 岡村 晝 (地域おこし企業人) 久米島町プロジェクト推進課



高校魅力化コーディネーター 紹介

こうづき ゆきお
上月 幸雄

今年度より「久米島高校魅力化プロジェクト」にコーディネーターとして携わることになりました。私自身、大阪から移住して 4 年目となり、当初から携わっている「風の帰る森プロジェクト」に続き、町が推進する地域の課題解決に向けた貴重な機会に就くことができ、感謝しています。今後も手間を惜しまず、遊びゴコロを忘れず日々大切に取り組んでいきます。

現在、先月の広報誌にも掲載された第 8 期の離島留学生を含む 30 名が「じんぶん館」で生活し、久米島高校に通っています。これまで彼らを含めた久米高生、学校職員、そしてプロジェクトの主体である久米島町と住民が、ありがたい未来に向けて協同で真剣に取り組んできた課題であると認識しています。まだ枠の外にある可能性も見出し、さらに魅力化を増していけるように引き続き協同体でプロジェクトを推進していきましょう。よろしくお願いいたします。

Universal Design 本誌はメディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザー検定 3 級取得者の確認・校正作業を経て発刊しています。



広報誌「広報くめじま」はユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。